

「反対の意見が、ほとんど、全員だったと思う」

と、市民環境部長が参加者の意見についての受け止めを発言



4月22日、廃止対象の大楽毛支所に隣接する大楽毛生活館で、「支所のあり方に関する住民説明会」が行われました。支所廃止による影響を受ける方が多く参加されることから、「この会場での参加者と市のやり取りは大きな注目を集めていました。」

反対意見が続出

会場にはいつぱいの30人以上の住民が参加。関心の高さを物語ります。

さて、会場の参加者の雰囲気を一言でいうと、「反対の意見が、ほとんど、全員だったと思う」との市民環境部長の発言に集約

ます。

この発言は、意見交換の終盤に、地域の町内会長さんが、「ここの反応・雰囲気はどう感じたんですか」との質問に答えたものです。今回に限らず、これまでの説明会の会場でも、やはり反対が殆どでした。

こんな反対意見が

会場の参加者の意見を一部を紹介します。

- マイナンバーカードがないと住民票の交付がコンビニで受けられないのは困る。カードがなくてもできるようなしてほしい。
- 大楽毛に検討されている公共施設の複合施設に支所を入れれば、経費を減らせるのではないか。
- コロナが百人以上も出ているのに、なぜ説明会をするのか。そんなに支所の廃止を急ぐ必要はない。
- なぜ市長が直接会場に来て説明しないのか。
- 私の町内会の高齢化率は68%。過疎

化したから支所はいらないと考えているようだが、地域のことをもっと考えてほしい。駅高架に多額の税金をかける一方、市の周辺部は切り捨てるのか。

- 市は支所を存続するために何か努力してきたのか。努力もしないまま突然廃止では納得できない。
- 広報くしろの新年号に「住みよい鉤路のまちづくりを止めない」と市幹部が書いていたが、その結論が支所廃止なのか。
- 支所をいきなり4つも減らすのは乱暴だ。4つを3つに減らす。コア三館に支所機業務を移すこともあったのではないか。
- 防災のことを考えると、支所を残して、何かあればすぐ対応できるようにすべきだ。

市は、説明会での意見を聞いて最終的に決める、廃止ありきではないと言いますが、なかなか信用できません。「圧倒的に反対が多かったら、支所廃止を撤回する」との確約がないからです。説明会終了後に「市民の意見は反対が多数、それを踏まえて改めて検討したが、廃止の結論は変わらない」となりかねないからです。

市政運営の基本は「民主主義」と市民の負託に応えること。圧倒的多数が反対ならば、強行するべきではありません。来年4月には市議選もあります。少なくとも、市議選で市民の民意を問うのが当然です。

